

第 9 2 2 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 6 年 1 月 3 0 日（火） 1 5 : 0 0 ～

場 所 保健センター 大ホール

益田市教育委員会

第 9 2 2 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 6 年 1 月 3 0 日（火） 1 5 : 0 0 ～

招 集 場 所 保健センター 大ホール

議事日程

第 1 会議録の承認について

第 2 教育長報告

第 3 議題

報第 1 号 「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況について

報第 2 号 史跡中須東原遺跡賑わい創出事業について

第 4 その他

（1）協議

益田市学校部活動の地域移行に係る基本方針について

（2）情報提供

（3）その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

高 市 和 則
大 庭 隆 志
齋 藤 哲 瑯
原 田 笑
山 本 ひとみ

事務局職員

教 育 部 長
教 育 総 務 課 長
学 校 教 育 課 長
協働のひとづくり推進課長
文 化 財 課 長
学 校 教 育 課 参 事
匹 見 分 室 長
美 都 分 室 長
教 育 総 務 課 長 補 佐
教 育 総 務 課 主 事

長 嶺 勝 良
志 田 原 涉
田 原 正 紀
岡 崎 健 次
石 田 公
杉 原 貴 宏
齋 藤 一 臣
田 中 一 史
齋 藤 勝 義
三 浦 菜々子

高市教育長 ただいまより第922回益田市教育委員会定例会を開催いたします。

まず、冒頭一言、今年の1月1日でございますけれども、能登半島沖地震が発生をいたしました。これで亡くなられた方に心からご冥福を、また、まだ被災をされていて大変な生活を送られている方は多くいらっしゃいます。そういった方に心からお見舞いを申し上げます。

では、続きまして、本日から新しいメンバーで教育委員会定例会を開催いたします。12月より、梅津委員の後任といたしまして山本ひとみ委員が就任をされております。

ではまず、山本委員から一言ご挨拶をいただければと思いますけれども、よろしくお願いします。

山本委員 失礼します。

このたび教育委員を拝命いたしました山本です。私は、昨年度まで市役所で勤務をしておりました。市役所では母子保健、そして児童福祉、そして保健医療対策等に携わっておりました。特に退職までの3年間、児童福祉に関わる中で、退職後は何かしら子どもたちの活動や、そして子育て支援に何か私ができることがあれば携わっていきたいという思いを持っておりました。そこにこのたびご縁があって教育委員というお話をいただきまして、教育委員をさせていただくことになりました。なかなか不慣れな点も多いのですが、皆様方にご教示いただきながらしっかりこの4年間努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

高市教育長 ありがとうございます。今山本委員からもありましたけれども、任期は4年ということです。今までも行政経験が非常に豊富であり、また特に福祉、児童福祉にも関わられていたということでございます。教育委員会、教育っていうのは子ども、特に就学以降、小学校以降ですけれども、そうは言いながらも益田市っていうのは保・幼・小の連携というところも強く言っているところでございます。ぜひ今まで培われましたそのご経験、見識を遺憾なく発揮をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

山本委員 よろしくお願いします。

高市教育長 それでは、議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

高市教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

高市教育長 次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況です。

前回の定例教育委員会から本日までの私の主な活動の状況をご報告いたします。

まず、12月22日でございます。市町村教育長会議、また教職員の働き方改革に関します共同メッセージを発出するというものがございます。こちら、皆様ご承知のとおり報道等でも流れましたが、県内の市町村の教育長が集まりまして、教職員の働き方改革について県教委と共に共同のメッセージを発出するというものでございます。これにつきましては、益田市としましても以前から教職員の働き方改革を強く言っているところでございます。引き続き県も本腰を入れてやっていくということですので、県と一緒に歩調を合わせて進めていきたいと思っております。

12月25日でございます。先ほどご紹介をいたしましたけれども、山本ひとみ委員の辞令交付を行いました。この日、給食の最終日ということで、美都の給食調理場を訪問したところでございます。

続きまして、年が明けまして1月8日でございます。教育委員の皆様にもご出席をいただきましたけれども、令和5年度の益田市二十歳の集いを開催したところでございます。こちら、新しく二十歳になった、なる方々が集いの運営等を主体的にやっていただきました。また、彼らも二十歳としての思いとか覚悟というものを表明され、非常に私といたしましても心強く思ったところでございます。

続きまして、1月9日です。こちら、高津給食センターを訪問いたしました。この日から給食が始まるというところでご挨拶をしたところでございます。

続きまして、10日でございます。亡くなられた野村隆弘先生に叙位叙勲の伝達でご訪問をしたところでございます。野村先生について簡単にご紹介をいたしますと、昭和40年4月に、今はもうございませんけれども、澄川中学校の先生に着任をされて、最終的に高津小学校の校長先生をされて退職をされたということでございます。長年のご功績に対しまして心から感謝を申し上げるとともに、ご冥福をお祈りしたいと思います。

続きまして、翌日11日でございます。竹岡純一先生も亡くなられたということで、叙位叙勲の伝達に伺ったところでございます。竹岡先生について簡単にご紹介をさせていただきますと、昭和47年4月に、こちらもうないですが、澄川小学校の先生に着任をされて教員生活を始められたということです。最終的には益田東中学

校の校長先生をされて退職をされたということでございます。竹岡先生に対しましては長年のご功績に対しまして心から感謝を申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りしたいと思います。

続きまして、15日でございます。横田中学校を1日学校訪問してまいりました。

続きまして、17日に戸田小学校、また22日に中西中学校を学校訪問したところでございます。22日につきましては、学校訪問以外に益田市社会教育委員の会が開催をされまして、そちらのほうでご挨拶を申し上げたところでございます。

続きまして、1月24日でございます。こちら、全国いじめ問題子どもサミット激励会ということで、東陽中学校の3年生3名が島根県を代表して参加をされました。文部科学省が主催をしているサミットで、27日に文部科学省の講堂で全国いじめ問題子どもサミットが開催をされるということで、そちらに行く激励と、実際どのような発表をするのかっていうのをお聞きしたというところでございます。こちらにつきましては、東陽中学校の豊田校長先生から終わったときに連絡をいただきまして、東陽中学校の生徒たちが全国から子どもたちが集まるという中において堂々と発表して非常に有意義だったとおっしゃっておいりました。また、各地から子どもたちが集まるので、意見交換をしつつ自分たちの取り組みをきちんと発表できたと報告を受けているところでございます。

続きまして、25日でございますが、美都中学校を訪問してまいりました。

26日でございます。こちら、萬福寺を会場としてお借りをしまして、第70回の文化財防火デーの消防訓練を行ったところでございます。こちらにつきましては、皆様ご存じのとおり昭和24年ですけれども、75年前に法隆寺の金堂で火災が起き、壁画が焼損したということがきっかけだということですので、市内にもいろいろと文化財、重要文化財等ございます。そういったものを引き続きしっかりと守っていくというところで意を新たにしたところでございます。

続きまして、29日でございますが、西益田小学校を学校訪問してきたところでございます。

続きまして、前回から今回までの間でご寄附、ご寄贈いただいた件をご紹介します。

まず、株式会社タイピック様と株式会社山陰合同銀行様から、吉田南小学校に対しましてテントを1セットご寄贈いただきました。また、年忘れ益田市民余芸大会実行委員会様から、小・中学校の施

設整備ということでご寄附をいただいたところでございます。また、岸田智様から、奨学金ということでご寄附をいただいたところでございます。ここでご紹介をさせていただくとともに、心から感謝を申し上げたいと思います。どうもありがとうございます。

私からの報告は以上でございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

第3 議題

○報第1号

高市教育長

「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況について

本日は、2件の報告案件がございます。まず初めに報第1号「冬休み！算数・数学パワーアップ教室」の開催状況についてから進めさせていただきます。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

杉原参事

それでは、冬休み！算数・数学パワーアップ教室の報告をさせていただきます。資料をご覧ください。

令和3年度から始められました中高一貫教育の一つとして、算数・数学パワーアップ教室を長期休業中に行っております。今回も冬休み、期日は12月26日の火曜日から28日の木曜日の3日間開催をしております。場所については、3日間市民学習センター、それから後半の27、28日の両日をふれあいホールみとで、2会場を使って実施をさせていただきました。

参加者のほうが島根大学、それから松江工業高等専門学校の学生さん、島大のほうが8名、松江高専のほうから5名の、合わせて13名の講師をお招きして開催いたしました。島根大学の8名のうちの7名がリピーター、それから松江高専の5名中3名がリピーターということで、13名中10名がリピーターというような状況でございました。

それから、小・中学生でございますが、申込者数が小学生56名、中学生26名でした。夏休みよりは若干人数は減りましたが、昨年度の冬が50名余りの参加者ということでございますので、かなり増えているという状況で、冬休みの開催の中では最多の申込者数ということになっております。あわせて、小学生の56名中28名、それから中学生の26名中の15名が夏休みのパワーアップ教室にも参加した児童・生徒でございます、こちらもリピーターが非常に多く参加してくださったという状況でございます。会場別の人数については、その表のとおりになっております。

それから、活動内容は飛ばさせていただきまして、アンケート結果のほうですけれども、今回の参加のきっかけというところを児童・生徒のほうに聞かせていただいて、大体こういうような内訳になっております。人数のほうは先ほどの申込者数と合わないところがありますが、複数選択をする方や、中には記入していない児童・生徒もおりましたので、若干数が合っておりません。チラシ、それから友達への勧めというところの児童・生徒に関しては基本的に過去参加して楽しかったというところで参加を表明したということでございます。

それから、アンケートの結果でございますが、これも今までにない非常に肯定的な評価が多いアンケート結果になっております。

次のページが、日程表で開催した内容をお示ししております。夏休みのところで大学生のほうから論理的な思考がちょっと苦手な児童・生徒が多いということを伺ってございましたので、そういった部分を改善していくような取り組みができないかということで、事前に学生と相談をいたしました。それを踏まえて、大学生、高専生の企画というところで判断推理ウオークラリーというのを学生が企画してくださって、例えば次の3人のうち1人だけうそをついています、うそつきは誰でしょうというような推論をする問題を、ウオークラリー形式でやっていくような企画を考えてやってくれました。

それから、常に目標を持って児童・生徒にプログラムに取り組んでほしいところですが、小学生はなかなか難しいところがありますが、中学生に関してはできるだけ具体的に書くように指示をしておりました。例えば素因数分解が理解したいとか、図形の証明が分かるようになりたいとかというような具体のものを書かせて、それを基に大学生と相談をしながら個人学習というところで進めさせていただきました。中学生の終わってからの感想のほうでは、大学生に分かりやすく教えていただいて楽しかったとか、分かりやすかったとか、分かるようになったというようなところが非常に多かったもので、そのあたりがアンケートの結果にも反映したかなと思っているところでございます。また、春休みにも計画をしようかなと考えているところでございます。

私のほうからは以上です。

高市教育長

ありがとうございました。

では、委員の皆様から何かコメント、ご質問等ございますでしょうか。

大庭委員

この取り組み、ご苦労さまでした。幾つか気がついたことがありますので、確認させてもらえたらと思います。

まず、私も2日目の11時前後頃にお伺いして、多目的ホールで子どもたちが学習活動をしているのを見ましたが、あのホールが広いかと思いましたが、人数が相当多かったのでもちよーどいいくらいのスペースだったように思いました。ただ、照明が少し暗いので、あの辺が課題かなと思いましたが、逆に2階の部屋でやると、とてもじゃないが窮屈な感じがすると思います。ちよーどいい広さの会場でよかったということを感じました。まず、それが感想です。

それから、美都会場のことですが、質問ですが、大学生、高専生、何人ぐらいこちらの会場に行かれたのでしょうか。というのは、美都はかなり人数が少ないので、今後のことですが、直接市民学習センターに来るのもなかなか難しいので、例えばリモートで対応するとか、周辺部に住んでいる子どもたちへの対応が今後の課題かなということを感じました。

それから、アンケートですが、小学生のアンケートが56名となっておりますけれども、実際これは57名だと思うので、また数字のほうを確認していただいて、訂正をしていただけたらいいのではないかと思います。

全てのアンケート項目で9割以上肯定的であったので、非常にいい結果が出ているなということを感じました。ただ、大学生、高専生のほうで気になったというか、ほとんど気にならないのですが、2項目ほど、要するに92%というのがあります。多分これは1名の方がいわゆる否定的な答えを出されたのだと思うのですが、この益田市への興味関心が高まったとか、今後同じ企画があればまた参加したいというのが92%ですが、1名の方がどうしてそういう否定的な回答をしているのか、その理由をできれば把握して、今後の取り組みの改善に生かしていくといいのではないかと思います。これは本当にすごく贅沢なことですが、できればここも100%になれば非常にいいなと思います。益田市としては若者の定着ということも考えているわけですから、特に益田市への興味関心が高まったという部分なんかは全員が全員そう思っただけなら非常にいいのではないかと思いますので、また今後検討をよろしくお願ひしたいなと思います。

それから、いわゆる日程表ですが、これの美都会場です、特にこれの例えば12月27日の美都会場の算数ウオークラリーというのがオレンジ色で塗られていると思いますけれども、このときに美都会場には中学生が2名参加しておりますけれども、これは延べ人数ですから実際には1名かもしれませんけれども、この時間中学生は何をしていたのかをまた後で教えていただきたいと思います。

それから、最後になりますが、細かいことですが、日程表の右上に抜歯資料とありますけども、これ、抜粋じゃないかなと思うのですが、いかがでしょう。訂正をお願いいたします。

以上です。

高市教育長
杉原参事

ありがとうございます。

大変失礼いたしました。日程表のところは抜歯じゃなくて別紙資料ということでございました。大変失礼しました。

大庭委員
杉原参事

別紙ですか。

はい。別紙でございます。申し訳ありません。

美都会場のほうは本来学生が三、四人ずつのグループで4グループ作っておりまして、2グループずつ分かれて学習センターと美都会場というところで考えておりましたけども、美都会場のほうが参加者のほうが非常に少なく、半分の6名から8名移動してもらうというわけにはなかなかいかないので、学生のほうはそれぞれのグループから1名ずつ、だから合計2名美都会場のほうに参加をして、残り11名は市民学習センターで講師をしていただいたということになっております。

それから、美都会場の算数ウオークラリーのことですけれども、このときは中学生が1名参加をしておりました。ウオークラリーを一緒にしておりますが、中学生用の数学ウオークラリーという問題を作って、個別にというか、実際同時にはやっておりますけれども、問題は別の問題を解いていただくような形で行いました。

それから、アンケート結果のところでございますが、学生のほうのところでは今後同じ企画があればまた参加したいというところで否定的な評価をされた学生さんは、高専の今5年生の方で、この春からどうも岡山大学のほうに編入をされるということで、次回来たいのだけれども残念ながら参加がそういった関係でできないというところで否定的な評価というところをされています。その学生さんはコミュニケーションが少し苦手な学生さんでございまして、小・中学生に算数、数学を教えるというところは上手にやっておられたのですけれども、同世代、他の学生との交流が少し苦手な学生さんで、2日目の夜に産業支援センターの企画で交流会をしたときにも少し涙が出たような場面もありました。3日目朝参加はどうかと心配はしておりましたが、3日目は元気に来て小・中学生と触れ合っておられました。少し他の学生とも交流ができるようになったと思っておりますが、少しそこら辺が苦手な1日目に、我々がカバーし切れなかったのが足りなかったところかなと思っておりますので、次回以降修正をして対応していきたいと思っております。

あと、アンケートの集計の人数ですが、恐らく小学生56名は、申込者数と同じ56名が正しいと思うのですが。

大庭委員 アンケートの一覧のところ、人数、内訳の合計が57になるのです。

杉原参事 上の参加のきっかけの分ですか。

大庭委員 ええ、そうです。

杉原参事 これは複数回答があったり、無回答があったりもするので、数が合わないところがございますが、下の部分は56名が回答しているというところがございます。大変申し訳ありませんでした。

大庭委員 分かりました。

原田委員 令和3年度から始まっているということですが、先ほど論理力に課題があるということで判断推理ウオークラリーをされたと伺いましたが、このほかにこれまでの企画と比べて加えられた点とか、新たに始められたことってというのはどういうことがあるんでしょうか。

杉原参事 今まで基本的にプログラミングのときにはタブレットを使った学習をしておりまして、それ以外は基本的には印刷したプリントだったり、児童・生徒の持ってきた問題集とかも使っておりまして、今年度ちょうど東京書籍さんをお願いをしましてタブレットドリルというのがありまして、タブレットの中で算数、数学のドリルのダウンロードをすると、そこにたくさんの膨大な問題数があって、それを解くというのを今回新たに行っております。春休みも引き続きそういったところに取り組んでいこうかなと思っております。

原田委員 前回の段階では論理力に課題があるということですが、今回のパワーアップ教室を終えられて学生のほうからそういった益田の子どもたちに対する特徴とか課題などを聞かれましたら、教えてください。

杉原参事 引き続き論理的な思考というところが苦手なお子さんが多いというところと、あと中学生はそんなにいなかったのですが、小学生は自分ができないと思うと諦めてしまう子どもさんがいるというところが少しありましたので、そこは支援のほうを考えていかないといけないかなと思っているところでございます。

原田委員 それを踏まえて次回以降にこういうことをしようっていうのは、もうアイデアなどは出ているのでしょうか。

杉原参事 基本的に学生と一緒に企画運営をしていくということでございますので、これから学生の募集を図った上で学生のほうに返しながらかそこら辺を相談協議しながら進めていこうと思っております。

齋藤委員 個人学習っていう時間割が結構数多くセッティングされているのですが、算数、数学だけに限定しているのですか。それとも普

段学校では分かりにくい問題など、教科以外のものについても受けているのですか。

杉原参事

基本は算数・数学パワーアップ教室ということでございますので、児童・生徒のほうには算数、数学の問題を解いていただいて、それを学生がサポートするということを主にやっておりますが、個人的に仲のよくなった学生とそういった個人学習の中で個人的に他の教科の相談をしていたことがあったかもしれないですけど、そこまで把握はしていません。

齋藤委員

これはもうそれに限定しているということですね。

杉原参事

基本的には教科は算数、数学にしています。

齋藤委員

子どもたちにはそう言っているわけですね。

杉原参事

はい、そうなっております。

齋藤委員

というのは、例えば調査項目にもあるように益田に興味・関心があるかないかとか、それ以外のものについてもいろいろ調査していますよね。だからそういうものをもし深めるのだとすれば、教科以外のことについて交流会やフリータイムで、せっかくだからお兄ちゃん、お姉ちゃんに聞きましょうといったような時間があってもいいのではないかと思います。

杉原参事

そういったところは1日目の学生との交流活動のところでトークバスケットというのをひとつづくりの社会教育主事さんを中心に行っていただきまして、トークテーマを決めて学生と順番に話をしていくことを通して、そういったつながりが持てていくのかなと考えています。あと間に休憩時間がございまして、児童・生徒たちにとっては年齢が近い学生ですので、すごく気楽に話しかけていきます。そういったところで交流が非常に持てているのではないかと考えております。

齋藤委員

それともう一つ、最初のいわゆる導入の時期と、それから少し空気に慣れてきたときとか、違う学校の子どもたちが集まっているのなら子どもたち同士の話合いの場を積極的につくることを意識してみてもいいと思います。また、大学や高専の生活の状況はどういうものなのか、勉強以外の少しゆとりって言ったらいいいのかな、本人たちの希望みたいなものも少し加味できるような時間があってもいい気がします。何か詰め込み過ぎという感じがしますね。

杉原参事

春休み以降も継続して取り組みをしたいと思っておりますので、そういったことも含めて参考にさせていただきます。ありがとうございました。

山本委員

大学生や高専の学生さんですが、益田出身の方はいらっしゃったでしょうか。

杉原参事 今回高専の学生が2名ほど益田市出身の学生さんがおられまして、その2人ともリピーターで、続けて参加をしておられる学生さんでございました。

山本委員 地元出身以外の方に益田の魅力を知っていただくっていうのもとても大事だと思うのですが、改めて地元の方に益田の魅力を知っていただくのも大事ななと思いました。ただ、声をかけるときに大学等で、地元の学生に別にアプローチしておられるかどうかというのはどうですか。

杉原参事 島根大学と松江高専のほうには益田市出身っていうくくりみたいなところは特別お伝えしておりません。理数系の得意な学生さんということでお声をかけさせていただいております。

山本委員 分かりました。

高市教育長 これを始めたときには、夏休みが最初でした。夏休みということもあり、当初考えていたのは大方帰郷される方が帰郷ついでにというか、帰郷と併せて参加してくださる方が、実は我々始めるときはそういった面も想像していたところだったのですけれども、実際のところ半分も益田市出身の方ではなかったと思います。たしか3割か4割くらいが益田の方で、実は一定程度益田市外の方も来ていただいて、益田市のことも知っていただけました。益田に興味を持っていただくっていう面も当初から念頭には入れていたのですけれども、実は思ったよりも益田出身の学生さんが少なく、よそからの方が多かったということで、ある意味益田をアピールする、知っていただくという意味では非常によかったなと思っていますところ。地元出身の方も結構そのときそのときで多かったり少なかったりがあります。ただ、だんだん参加をする児童・生徒の数も増えてきているという状況もありますので、そういったところを引き続き大学や松江高専とも相談をしながら、どういう形で講師を増やしていくのかとか、募集していくのかは検討していきたいと考えているところでございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○報第2号 史跡中須東原遺跡賑わい創出事業について
高市教育長 続きまして報第2号史跡中須東原遺跡賑わい創出事業についてです。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

石田課長 それでは、史跡中須東原遺跡賑わい創出事業につきましてご報告

申し上げます。

これは、先日の定例教育委員会でもお知らせした事業でございます。実際に12月27日10時に行いました。非常にいい天気、写真等見られれば分かると思いますが、いい天気、快晴でございます。それで、会場は中須東原遺跡内ということで実施しております。参加していただいたのは、中須保育所の46名の園児の皆さん、それからよつばキッズスクールさんといって放課後児童クラブの関係の方の30名の皆さん、そしてコネクト11さんと言いまして障がい者児童放課後等デイサービス等にも通っておられる6名の皆さん、合計82名の皆さんの参加でございました。

内容としましては、中世武士団凧揚げ大会ということで、写真1に載せてありますようなこういうふうな元気に走り回って、たこを揚げていただいたということでございます。

それから、2番目の画聖に挑戦！ということで、これは裏面に写真にも載せております。このような状況で東原の中にある道路に、雪舟さんのようなネズミは見えませんでした。こういう絵を描いていただいたということでございます。

それから、中須東原遺跡ライドということで、これは主宰が益田市スポーツ協会さんですが、一緒に行いました。これも写真でいけば3です。裏面の一番下の写真3、こういう風景でございました。このときにはサン電子工業さんからのふるさと納税を利用した自転車の購入ということもありましたので、贈呈式も行いました。

感想等といたしましては、従来の座学形式での益田市の歴史を学ぶという出前講座、これも一つの意義があることですが、史跡内で実際に現地に出てこのようなイベントをする、こういうこともやっぱり喜んで楽しくやっていただけて良かったと思いました。

今後ですけれども、今回は益田市のほうが文化財課等のほうが音頭を取りながらこういうふうなことを実施したのですけれども、地域住民の方、そしてそれぞれの保育園等、そういう団体におられる方が実施いただけるような、そういう取り組みにしていきたいと考えています。その中で体験型のイベントっていうのは本当に楽しそうに子どもの皆さんが笑って走ってという姿も見ることができましたので、そのようなふるさと教育の取り組みっていうのを一層推進したいと考えています。

その他としましては、当日読売新聞社さんと中国新聞社さんの取材を受けました。読売新聞の方の記事ということで、12月29日ですから実施の2日後にこういうような記事で紹介されました。

報告内容は以上でございます。

高市教育長 ありがとうございました。

 では、本件につきまして何かコメント、ご質問等ございますでしょうか。

原田委員 写真からすごく楽しそうな様子が伝わってきて、座学ではなくこういった体験型のイベントってすてきだなと思ったのですけれども、この体験型のイベントの中で学びの要素を盛り込むときにはどのようなことをされたのでしょうか。

石田課長 学びというか、対象が園児さんとか小さい子どもさんでしたので、なかなか普段とは違う難しさがありました。例えばふるさと教育ということの中で過去に高校生の皆さんが歴代の武将のイラスト等も作っていただきましたので、それをお配りして、益田市にはこういう方がおられたという簡単な学習もあったかとは思いますが。これはこれからまた考えていけるのではないかと思います。

高市教育長 ありがとうございました。

 それでは、本件につきましてご質問、コメント等ございましたらお願いいたします。

高市教育長 ありがとうございます。

 それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 ＝全員了承＝

高市教育長 それでは、以上をもちまして定例会を終わります。

 今回は2月22日に定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間 17時00分＝